

研究会報告

2013年10月14日(月) 定例研究会報告

テーマ： Migration and Development in Asia

報告者： Dang Nguyen Anh 氏 (Director, Institute of Sociology, Vietnam Academy of Social Sciences)

時間： 10:30~12:30

場所： 生田校舎 社研会議室

参加者数：約10人

報告内容概略：

ダン・グエン・アイン氏はベトナム社会科学院社会学研究所所長である。今回はグローバル化が進化するアジア地域における人口移動について講演していただいた。

はじめに人口移動をいくつかの類型に区分し、アジア地域における人口流動が急激に増加している現状について説明した。現在アジア地域の人口が世界全体に占める割合は60%に近く、その一部が移動するだけでも世界に与える影響は大きいというのが、基本認識である。

人びとのごくこうした国家間移動は、経済的格差、運送手段の発展、教育、マスメディアの影響、社会関係そしてグローバル化によってますます促進されている。アジア地域内で人口流出が多いのは、フィリピン、バングラディシュ、カンボジア、ラオス、中国、スリランカ、インドネシア、ベトナム、インド、パキスタン、ビルマ、ネパールなどの途上国であり、流入が多いのは韓国、台湾、シンガポール、日本、香港、ブルネイなどの所得水準の高い国々である。そして流入する人びとの多くは3D-job (Dangerous, Dirty, Demeaning) 労働者として働くことになる。

人口移動の問題はアジアの経済発展にとって長期的な課題となっており、今後とも多様化しながら増加するであろう。しかし移民労働者は差別や偏見などの対象となりやすいという現実もある。送り出す側には、移動者に対するよりよい情報提供、教育、訓練など、受け入れ側には労働者の福祉や権利を守る体制、そして一時的な滞在ののちに帰国する還流ルートの確立が必要となるであろう。

出席者からは、移民問題を社会関係資本(社会的ネットワーク)と関連付ける視点、あるいは欧米への移民労働者問題など活発な質問、コメントが相次いだ。

記：専修大学人間科学部・嶋根克己